

一 鴉片戦役 印度より清國に輸入する貿易品の主なるものは、鴉片なりしが、清人頗る之を嗜み、精力を弱め、生命を害するを以て、仁宗、その輸入を禁じたれども、容易に行はれずして、密賣



鴉片燒棄
(一四九九)

鴉片戰役
(二五〇〇)
一二五〇

盛に行はれたり。仁宗の子宣宗の時に至りて、林則徐をして、鴉片の事を管せしめしが、林則徐、廣東の英商に迫り、其の所藏の鴉片を出さしめ、二萬餘函を焼き棄て、鴉片の賣買を厳禁し、終に英人の通商を禁じたり。

是に於て、英國は、貿易の保護を名とし、ブレーマーBremerをして、軍艦を率ゐて清國を攻めしめたり。天保十一年、ブレーマーは、先づ舟山島を占領し、廣東・廈門・寧波の諸港を封鎖し、尋いで別將エリオットElliottをして、直に渤海灣に入り、白河の口に迫らしめしかば、宣宗大に驚き、林則徐の官を罷め、兵備を撤して、和を議せしめしが、朝議復變じ、林則徐を起し、攘夷の詔を下して、英人を逐はんとせり。されど、毎戦利あらず、吳淞、鎮江、皆陥り、英軍、南京に迫りしかば、清廷は、耆英・伊里布等をして、和を議せしめたり。

南京條約 英國大使ポッティンジャーは、清の全權大臣と南京に會して、和約を結び、清は、償金二千一百萬弗を出し、香港を割譲し、上海・寧波・福州・廈門・廣東の五港を開くことを諾せり。之を南京條約といふ。

長髮賊の興起 清は、建國以來、征伐を事とせしより、國用漸く足らざりしが、鴉片戦役以後は、國庫益窮乏を告げ、重稅を課して其の急を救ひしに、兩廣の地、大に饑えて、小民困弊の極に達せしかば、亂民、所在に蜂起せり。就中、洪秀全は、基督教に附會して、自ら天帝の次子なりと稱し、國を太平天國と號し、自ら天王と號して南京に都せり。其の徒、清俗の剃髪を罷めたるが故に、之を長髮賊といふ。清廷、諸將を遣して之を征せしめしが、八旗・綠旗の兵は、己に衰廢して用をなさず、州郡概ね賊の掠奪を蒙れり。是に於て、文宗、詔して勤王の兵を募

廣東、廣西、飢饉
長髮賊の亂
(二五一〇)
天下者中國之天下
(洪秀全)
(二五〇二)

長髮賊の亂
(二五一〇)
十二五二
四
(洪秀全)

南京條約
(二五〇二)

二



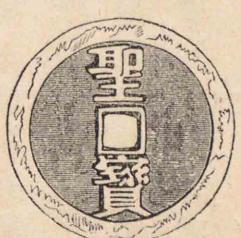
年一十治同生に鄉湘縣鄉湘省南湖は藩國曾 像肖の其び及廟の藩國曾
りあに麓の山蛇府昌武省南湖は廟本の祀て立を祠に省各す謚と正文二十六年す死

りしかば、曾國藩、ま
づ湖南に起り、尋いで李鴻章・左宗棠等
も、鄉勇を募りて賊軍を討ちしが、賊勢、
容易に衰へざりき。
英佛の北清侵伐
清廷の内亂に苦める時に方りて、更に英佛との葛藤を生じたり。事は廣東兵士の英國船アロイ
號に踏込み、清人を

曾國藩兵を
起す(二五
一三)

四

執へたるに始まれり。此時、佛國宣教師も廣西にて清國官吏に殺されたりしかば、ナポレオン三世兵を發して英國と連合し、安政四年、先づ廣東を陥れ、更に北上して天津に逼れり。清廷は、已むを得ず、天津にて和議を結びしが、翌年、清國砲臺は、批准交換の爲に、北京に向ひたる英・佛公使を砲撃せり。是に於て、二國、大に清國の不信を怒り、英佛同盟軍、白河に入り、大沽を陥れ、天津を取りて、遂に北京に入り、宮殿を焼きしかば、文宗、難を避けて熱河に逃げ、恭親王をして和を請はしめたり。露西亞公使イグナチエフ^{時北洋を従事。イグナチエフ}、その間に立ちて調停し、清國は、償金五百萬兩を英國に、八百萬兩を佛國に支辨し、牛莊・登州・臺灣。



長髮賊の貨幣

北京條約
(二五二〇)

五

潮州・瓊州・九江・漢口の諸港を開き、基督教弘布の自由を許し、九龍半島を英國に割譲することを約せり。之を北京條約といふ。

長髮賊の平定 清國、己に外國との紛議を收めたれば、是より、力を内亂の鎮定に專にせり。當時、長髮賊は、なほ江南に蟠居して、猖獗を極めしが、文宗崩じ、穆宗立つに及び、米人ワルド・英人ゴルドン等^{Gordon}を招聘し、洋槍隊を組織して、賊徒を征せしかば、是より賊勢頓に衰へ、賊魁洪秀全も、事の成らざるを見て、南京に自殺し、餘黨悉く平きたり。^{元治}この亂、前後十五年に亘り、其の侵略を被れる所、十六省に及べりと云ふ。

一

第六 露人の東略

近世史 露人の東略

長髮賊平定
(二五二四)

露人のシベリア經營 露西亞は、中世紀の頃、蒙古人の侵掠

レス族
レスコブ族

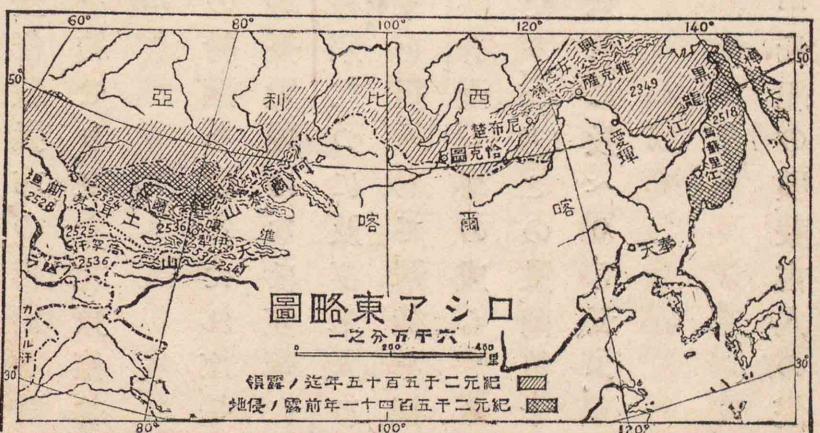
露西亞國獨立(二一四〇)

キタリク
キタリク

シベリア侵
略の端(二三九)

を蒙りてより、二百餘年の間、欽察汗國の治下に屈せしが、我が文明十二年、モスクバ大公イバン三世、始めて欽察汗の羈絆を脱し、露西亞帝國の基を立てたり。ついで、イバン四世、四方を征服して、大に露西亞の版圖を廣め、また、シベリア侵略の端を開けり。

初めシビル汗、今のトボルスクの邊を領せしが、コサックの酋長イエルマク、衆を率ゐてウラル山を越え、シビル汗を追ひて、其の地をイバン四世に獻じたり。シベリアの名、



二

ニヤフクに起れり。

ニ布楚條約 露西亞は、其の後、頻りにコサック人を東方に派し、エニセイ河・レナ河の地方を略取して、その土人を懷け、正保・慶安年間、黒龍江の地方を探検し、寛文年間、黒龍江北岸にアルバジン城を築きたれば、これより兩國境界の争起り、元祿二年、聖祖は尼布楚條約を締結し、以て露の南下を防ぎたる。然れども、高宗以後は、上に英主なく、内亂外寇、交々起り、終に

露西亞東侵の志をなさしめたり。



恰克圖條約(二三八七)

尼布楚條約(二三四九)

三

ア、ヨビラム ヨビラム
テベ年〇一八一年西はキスルーム
江龍黒年六四八一の生にクリアル
アリベシ部東翌り歸てし行航を
す検探を江龍黒後れらせ任に督總
を約條渾愛てしを國清回二とこ
るを伯ルームアてりよに功めしば結
りへいとキスルームアれらけ授

恰克圖條約 享保十二年、
世宗は、露國と通商
條約を結び、恰克圖

ニコラ一世の命を奉じ、安政元年、黒龍江を下りて、河岸一帯の地を占領し、清が長髮賊の亂に苦しむに乘じ、安政五年、國界改定の議を迫りて、**愛璣條約**を結び、江北の地を取り、烏蘇里東岸の地を兩國雜居の地と定めた。萬延元年、英佛連合軍の北京に入るや、イグナチエフ、之が調停を計り、其の報酬として、烏蘇里江東の地を得、その南端に、浦鹽斯德港を開いたり。

四

露西亞の中央亞細亞經營 中央亞細亞は、帖木兒大王の死後、内亂交起りて、國內分崩せし。其の後に至り、基華汗國、布哈拉汗國、浩罕汗國等、相ついて起れり。然るに、其の後、三汗國、互に争鬭を事とせしかば、露西亞此の機に乗じて、中亞細亞を侵略せんとし、慶應元年、まづ浩罕の兵を破り、明治元年、布

沿海州占領
(二五二〇)

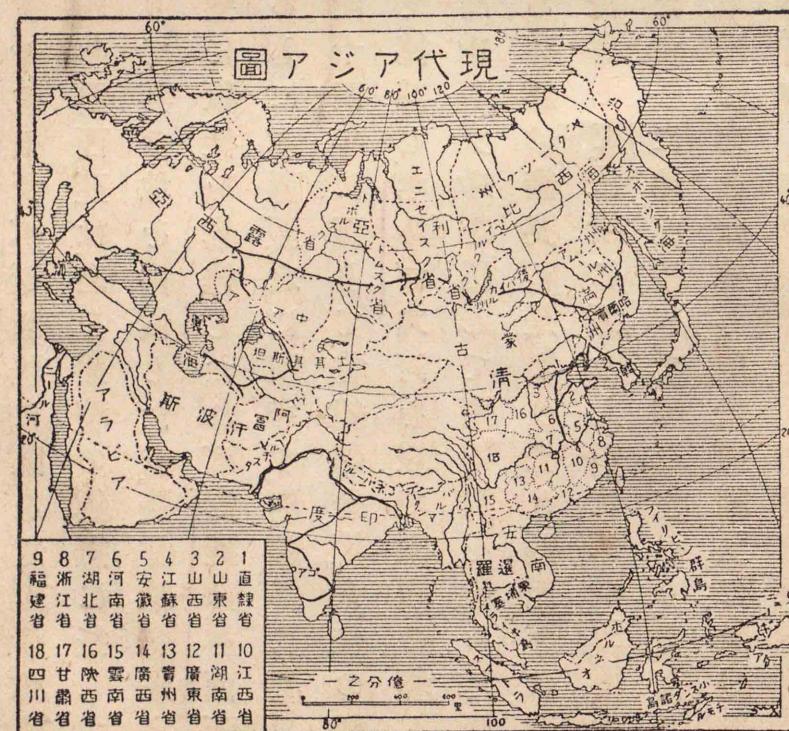
愛璣條約
(二五一八)

浩罕布哈拉
兩汗國保護
(二五一八)

基華汗國保
護(二五三)

浩罕汗國滅
亡(二五三)

五



ハラの軍を破りて、二國を屬國とし、明治六年には、基華をも屬國としたり。明治九年に至り、浩罕人、露西亞の羈絆を脱せんとして、亂を起しきが、反つて、露西亞に滅されて、その屬州となれり。

伊犁事件 斯く露西亞は、中央亞細亞に於ても、清國と接

壞するに至りしが、會ヤクーブベグ、回疆に亂を起し、伊犁も亦、亂れたれば、明治四年、露西亞は、名を邊境の鎮撫に托して兵を進め、伊犁に入りて、其の地を占領したり。陝甘總督左宗棠、連年、兵を用ひて、遂に叛徒を鎮撫したれば、清廷は、露西亞に伊犁の返還を求めしに、露西亞、之に應ぜず、兩國、終に兵を境上に進めしが、明治十四年に至りて、曾紀澤、全權大使の任を帶び、露京に入りて協議し、ホルゴス河を以て兩國の境とし、清國は、償金九百萬ルーピー^{Kiorgos}ルを出して、漸く局を收めたり。

中央亞細亞に於ける英・露の衝突 是より先き、露西亞は、漸くカフカズ地方を侵畧して、波斯に逼りしかば、波斯王、屢々之と戰ひたれども克たず、終に地を割きて和を乞へり。是より、露西亞は、波斯を懷けて、勢力を扶植し、中央亞細亞に於ける勢力も、益盛になれり。

露國の伊犁
占領（二五三一）

伊犁條約
(二五四一)

六

露國のマル
フ占領（二五四四）

英露境界劃定（二五四五七）

バミル事件
決す（二五五五）

明治十七年、露西亞はトルコマーン族を破りて、マルフ^{Merv}を併せ、アフガン領ヘラット^{Heraat}に逼りしかば、英露はこゝに衝突せしが、明治二十年、英國は一步を譲り、露領とアフガン領との境界を定めた。其の後、パミル^{Pamir}境界の争清露英の三國間に起りしが、明治二十八年に至りて、協議成れり。

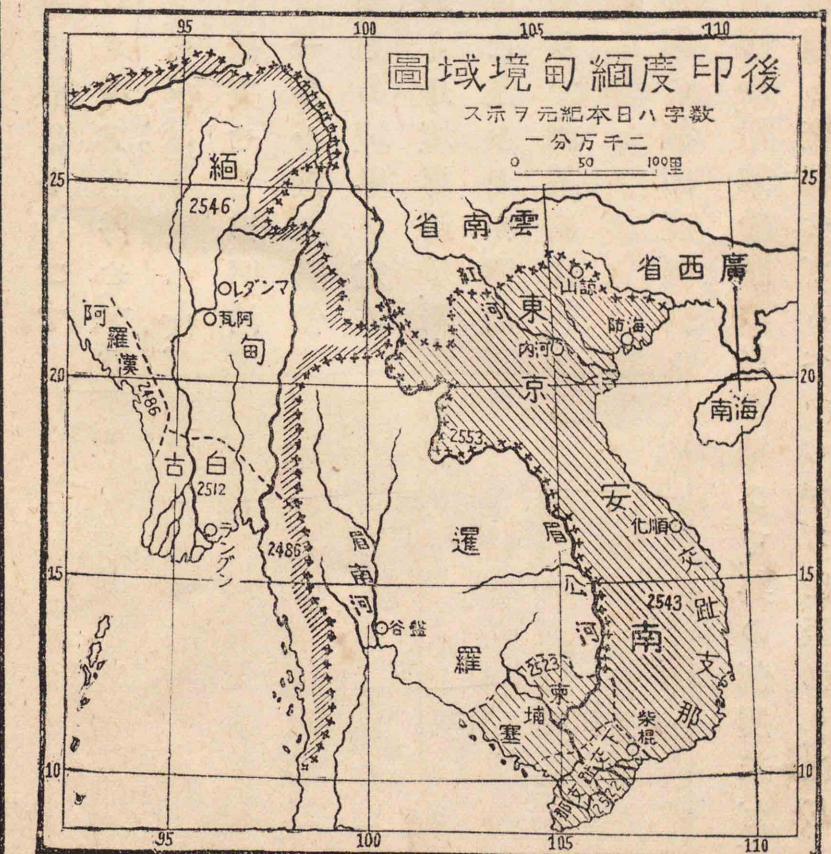
第七 佛國の後印度經營

安南事件 清國は、伊犁紛議の局を結びて、其の創痕未だ癒えざるに、又、佛國と交戦せざるべからざるに至れり。はじめ、



(二四六二)
越南國起る

安南に阮福映と云へるものあり、佛國の宣教師ピニヨー^{Tigneau}の勸に従ひ、地を割き、通商を許すを約して、佛國の援助を求め、遂に大越皇帝を亡して、越南國を建て



たり。今の安南帝の祖なり。これを世祖といふ。然るに其の後、越南は前約を履まず、且、屢佛國の宣教師を虐待せしかば、ナポレオン三世は、兵を發して越南を攻め、戦争數年に亘りしが、文久二年、越南王、力盡きて和を請ひ、南邊三州及び崑崙島を割き、償金二千萬フランを出せり。翌年、柬埔寨は、自ら佛國に乞ひて保護國となれり。

佛領印度支那 明治七年、佛國は、佛安條約を改訂して、紅河の航通を自由にし、衛兵を諸港に置くことを承諾せしめしが、十五年に至り、大兵を發して河内^{ベトナム}を占領したり。是に於て、安南帝は、長髮賊の殘將、劉永福をして佛軍を伐たしめしが、翌年、佛國海軍の將クールベ^{Courbet}、順化灣^{Hue}の砲臺を陥れしかば、安南帝、終に和を請ひて東京地方を割き、且、フランスの保護を受くることとなれり。

(二五四二)
越南國保護

佛安條約改訂(二五三)
(二五二)
柬埔寨國保護(二五二)

佛安條約
(二五三)
柬埔寨國保護(二五二)

二

清佛交戰
(二五四四
一二五四
五)

三

佛國眉公河
東占領(二
五五三)

四

清佛の交渉 然るに、安南は、元、清帝の封冊を受けしを以て、清國は、此の條約に異議を唱へ、明治十七年、清軍は佛軍の諒山を占領せんとするを擊退せしかば、是より佛安事件は、清佛事件となり、クールベーは、福州附近に福建艦隊を擊沈し、臺灣諸港を封鎖し、澎湖列島を占領せり。明年、清將馮子材は、佛軍を破り、クールベーは、病に罹りて死せしが、會、フランスの内閣、交迭して、外交の方針、一變せしかば、兩國、終に和を結び、清國は、佛安條約を承認したり。

暹羅國との關係 佛國は、更に暹羅を侵畠せんことを企て、明治二十六年、兵力を以て、眉公河東の地を占領したり。暹羅王は、頻りに抗議したれども、効なく、終に其の要求を承諾せしが、英國の異議を唱ふるに及び、眉公河上流に、五十英里の中立地を選定することを約したり。

一

第八 清國に對する諸強國の壓迫

一 淸國の衰勢

西歐の列強は、清國の衰弊に乗じて、頻りに清の四境を侵し、露國は、新彊省・蒙古・滿洲の方面より、英・佛は南方より、各、其の勢力を伸ばし、清の國威、漸く蹙まれり。されども、清國は、舊を守りて新に就くを喜ばず、尊大自ら居り、隣邦を侮りて、敢へて我が國と戰端を開き、之が爲に、反つて大敗を招き、己の弱點を暴露するに至れり。

二

列強の壓迫 是に於て、列強は益々輕侮の念を生じ、各利權を獲得せんとし、獨逸は、膠州灣を、露國は、關東州を、英國は、威海衛を、佛國は、廣州灣を租借し、又、内地に於ける鑛山採掘・鐵道布設の權を強要したり。

是の時に方り、變法自強の説、頻りに民間に起り、德宗亦、改革

一七三

北清事變
(二五六〇)

三

の志あり、康有爲等を擧用し、大に爲す所あらんとせしが、満人之を喜ばず、西太后を起して政を簾中に聽かしめ、帝を幽せしかば、保守・排外の風、盛に起れり。偶、義和團の暴徒、山東に起り、遂に北京に入りて、各國公使館を包囲せしかば、日・英・露・佛・米等の諸國連合軍を組織して、北京を占領し、各國公使を救へり。清廷、因りて元兇を所罰し、償金を約して和を請へり。

清國の末路　露國は、この事變を機として、滿洲に出兵し、事定まりて後も、敢へて撤兵せざるのみならず、漸く手を韓國に伸ばし、我が國權を殺がんとせしかば、我が國遂に戰を宣し、茲に日露の戰役を見るに至れり。其の結果、我は、關東州の租借權を得、韓國を我が勢力圏内に移したり。其の後、德宗・西太后、相尋いで没し、宣統帝、幼冲を以て踐祚するや、清廷の威信、全く地に墜ち、革命の思潮は、國內に充滿し、明治四十四年、

清朝滅亡
(二五七一)

革命軍、先づ南清に起り、忽ちにして全國に瀰漫するに至れり。清廷驚駭、策の出づる所を知らず、宣統帝位を退き、清朝、ここに滅亡し、共和政體、新たに成り、國を中華民國と稱し、袁世凱、推されて假大總統となれり。されど、共和政體の基礎、未だ固からず、列國、亦未だ承認を與へず、支那、今後の政變は、未だ俄かに豫測すべからざるものあり。

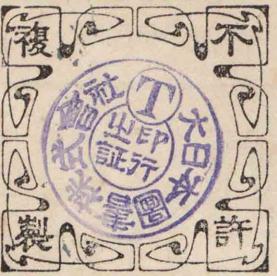
修 統 合 歷 史 教 科 書 東 洋 史 終

廣大寺邦四百金相二等三學の西學女
の由事了。洪考之や男仕。考之考之

統歷史師範學校用 東洋史 奧附

金四拾九錢

著作者 齋藤斐



發行所

各府縣下特約販賣所

大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地
大日本圖書株式会社
郵便振替貯金口座 東京

右代表者

京橋區銀座壹丁目廿二番地

章

京橋區銀座壹丁目廿二
號

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地
大日本圖書株式會社
右代表者
宮川保全
專務取締役

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地

廣島市大手町八丁目の火事に付せり

廣島市
大手町

各府縣下販賣特約所

- 【東京府】丸善・青野・三友・文林堂・大倉・水野・林平・杉本・中西屋・文會堂・東京堂、
二松堂・勉強堂・有隣堂・良明堂・東海堂・松邑・十字屋・北隆館・森江【神奈川縣】弘集堂、
勉強堂【靜岡縣】吉見・三原屋・谷島屋【山梨縣】柳正堂【愛知縣】川瀬・永東
【長野縣】西澤・朝陽館・水琴堂・日新堂・盛文堂【群馬縣】煥乎堂・埼玉縣】高野
【千葉縣】多田屋【茨城縣】川又・明文堂【栃木縣】煥乎堂分舗・青木【宮城縣】
英華堂・金港堂【岩手縣】佐藤・文明堂【山形縣】八字屋・盛文堂【秋田縣】
曙堂・藤島・東海林【青森縣】今泉・今泉支店・青霞堂【北海道】川南・富貴堂・魁文
舍・一二堂【新潟縣】北光社・目黒・覺張・高桑・萬松堂・萬松堂支店・野島【岐阜縣】
都文堂・都文堂支店【富山縣】中田・學海堂【三重縣】安屋・岩田【大阪府】
松村・三宅・柳原・今井【京都府】松田・若林【兵庫縣】熊谷・中井・竹内【奈良縣】
木原【石川縣】宇都宮【福井縣】品川【滋賀縣】廣田【岡山縣】竹内
【廣島縣】積善館・芸香堂【鳥取縣】尙文館・徳岡・今井【島根縣】川岡
【山口縣】超世館・日新堂・舍英堂【香川縣】開文舗・開益堂【德島縣】靜壽堂
【愛媛縣】向井・土肥【和歌山縣】平安堂【長崎縣】五郎川【宮崎縣】
修造堂【佐賀縣】平井牧川【福岡縣】金文堂・佐野・積善館・博文社【熊本縣】
長崎【大分縣】甲斐・中間・梅津【鹿兒島縣】吉田【沖繩縣】小澤【臺灣】
新高堂

大日本圖書株式會社
(正月三十一年調)

